



KNB
 SD-02
 -04



KNB
 SD-02
 -17



KNB
 SD-02
 -05



KNB
 SD-02
 -23



KNB
 SD-02
 -07



KNB
 SD-02
 -24



KNB
 SD-02
 -11



KNB
 SD-02
 -25



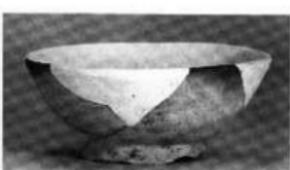
KNB
 SD-02
 -12



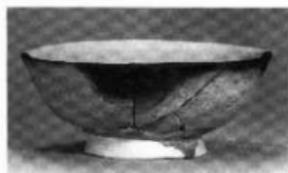
KNB
 SD-02
 -27



KNB
 SD-02
 -15



KNB
 SD-02
 -30



KNB
SD-02
-32



KNB
SD-02
-41



KNB
SD-02
-33



KNB
SD-02
-45



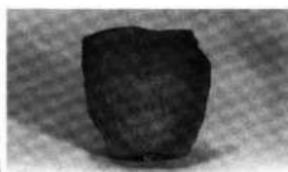
KNB
SD-02
-37



KNB
SD-04
-03



KNB
SD-02
-38



KNB
SD-04
-04



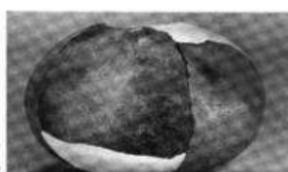
KNB
SD-02
-39



KNB
SD-04
-05



KNB
SD-02
-40



KNB
SD-04
-06



KNB
SD-04
-09



KNB
SD-07
-01

KNB
SK-07
-04



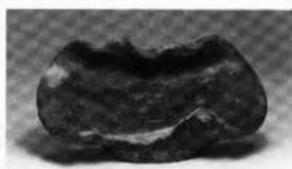
KNB
SD-07
-04

KNB
SK-18
-03



KNB
SD-09
-02

KNB
SK-18
-03



KNB
SK-05
-06

KNB
SK-28
-02



KNB
SK-07
-01

KNB
SK-32
-01





KNB
SK-32
-02



KNB
SK-32
-08



KNB
SK-32
-03



KNB
SK-32
-09



KNB
SK-32
-04



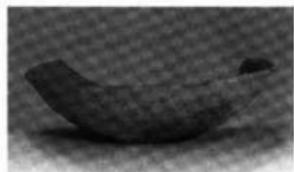
KNB
SK-32
-10



KNB
SK-32
-05



KNB
SK-32
-11



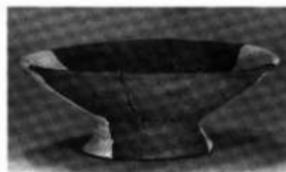
KNB
SK-32
-06



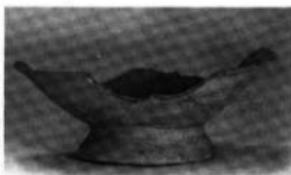
KNB
SK-32
-12



KNB
SK-32
-07



KNB
SK-32
-13



KNB SMG-2
SK-32 -03
-14 墨書



KNB
SK-32 SMG-2
-15 -06



KNB
SK-32 SMG-2
-16 -07



SMG-2
-01



SMG-2
-08



SMG-2
-03



SMG-2
-11



SMG-2
-20



SMG-2
-29



SMG-2
-25



SMG-2
-30



SMG-2
-25
墨書



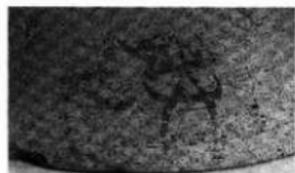
SMG-2
-33



SMG-2
-27



SMG-2
-34



SMG-2
-27
墨書



SMG-2
-39



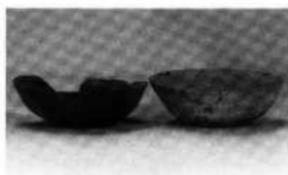
SMG-2
-28



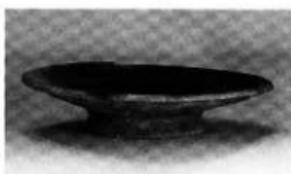
SMG-2
-40



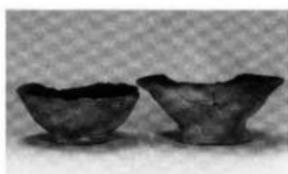
SMG-2
-43



SMG-5
-01
-03



SMG-2
-44



SMG-5
-08
-09



SMG-2
-47



SMG-5
-10



SMG-2
-46
-51



SMG-5
-20



SMG-2
-55



SMG-5
-22



SMG-2

- 2



SMG-2

- 2



P L 34
下郷第2号古墳出土遺物

SMG-2
直刀3振



90. 6. 7
トレンチ調査



90. 9. 18
上田市文化財
保護審議会視察



90. 6. 14
表土剥〜検出



90. 10. 9
SMG-1
奥塚倒壊防止



90. 7. 2
古墳写真測量



90. 10. 16
遺構写真測量



90. 7. 2
表土剥



90. 10. 31
SMG-2
周溝掘り



90. 7. 21
表土剥〜検出
遺構掘り



整理・報告書
作成作業



90. 9. 11
SMG-2
石室内調査



整理・報告書
作成作業

付編 下郷第2号墳出土人骨について

1 人骨の出土状態

人骨は複数の個体で、玄室内の部に一括された集積状態で出土した。調査に際して、床面直上または下・上層に分け、位置も区別して採り上げたが、各骨に明瞭な関連性は認められなかった。

保存状態はおおむね不良で、大脳骨などの長大な骨も腐朽により細片状に崩壊し、形態を止める部位は極めて限られている。特徴的な傾向として、主に大型長骨の破片はかなり多量に残存するが、他の細小な部位の骨は、歯を除きほとんど含まれていない。土中での腐蝕に伴う消失であるのか、骨の部位を選択しての二次的な集積の結果なのかは判然としない。

2 人骨の形状

残存した骨の中で、比較的形状を保ち、部位の認定ができた骨に付いて記載する。

(1) 頭蓋骨

脳室である板状の細片が小量残存する。かなり厚い骨壁の部分がある。縮菌状に離脱した縫合部分が認められる。側頭骨の岩様部の一部、後頭骨の項線を含む部分なども残る。その他の部位はまったく見当たらない。

(2) 上腕骨

骨体的一部分が残りに、同部位の骨も細片中に混在するものと見られるが、確認できない。

(3) 大脳骨

一括して細片はかなり多量である。現存長10~15cmの骨体部分は複数となる。他のすべては崩壊により細片化し、骨質も脆い。2個体のものと見られる骨体の中央部分は周径も大きく、厚い骨壁でかなり頑丈な形態を具えている。粗線の発達は中等度である。これに対してやや華奢な骨体は異個体のものと見なされる。近・遠位関節部分の小片が残る。

(4) 歯

総計50数本の歯が残存するが、出土時の個体別は確認できない。すべての歯で冠状のエナメル質部分が比較的保存が良く、歯根は腐蝕によりことごとく消失している。

歯種と本数

上顎右・I1=1、P1=2、P2=1、M1=4、M2=4、M3=3。

同左・I1=1、C=1、P1=2、P2=2、M1=4、M2=4、M3=3。

下顎右・M1=4、M2=4、M3=2。

同左・P2=1、M1=4、M2=4、M3=3。

他に破砕された歯が数本残る。

咬耗の状態

上・下顎両側の大臼歯の咬耗の進行程度は次のように分類できる。

1) 咬耗のほとんど認められないもの。

- 2) エナメル質が面状または帯状となったもの。
 - 3) エナメル質全面にわたるもの。
 - 4) エナメル質全面が陥凹し、象牙質が露出したもの
- などの各段階に類別される。

このような傾向は、各個体の咬合状態、性別、食生活など多様な生活環境に起因するもので、一概にはいえないが、若年から熟年期 (Broccaの1° ~ 2° に相当) に至る年齢差の歯の混在が推定できる。

まとめ

本古墳の出土人骨は残存歯の本数・歯種や人鬚付の骨体の遺存の状態から、最低4体程度の個体数が推定される。

強壯な骨格を有する男性人骨と、やや繊細な女性的ないし若年齢の人骨が混在し、歯の大きさや咬耗の程度もこれに合致する。

残存人骨は頭蓋骨と歯、人鬚骨など一部のものに限られ、他の細小な部位の骨はまったく見られない。堅緻かつ長大な部分に限られた遺存の結果とも考えられるが、二次的な埋葬に伴う主要部位の骨の集積とも推測できるものである。

信州大学医学部第2解剖学教室

西 沢 寿 晃